

スポーツでまちづくり



たるもと しょういち
樽本 庄一
かこがわ
加古川市長(兵庫県)



とみおか きよし
富岡 清
くまがや
熊谷市長(埼玉県)



こんどう せいいちろう
近藤 清一郎
ちくま
千曲市長(長野県)

司会・コーディネーター
いのうえ しげる
井上 繁
常磐大学教授

スポーツによるまちづくりは、地域経済の活性化、住民の健康増進、市民の一体感の醸成など、さまざまな効果があります。現在、このスポーツをまちづくりなどに生かそうと、プロスポーツチームや合宿の誘致、スポーツを身近に行える環境の整備など、スポーツを軸にしたさまざまな取り組みを実施する都市自治体が増えています。

今回の座談会ではスポーツでまちづくりを行い、大きな実績を挙げている近藤清一郎・千曲市長、富岡清・熊谷市長、樽本庄一・加古川市長に、具体的な取り組み内容、取り組みを行うに至った背景や経緯、その効果、今後の抱負などについてお話しいただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)



体育指導員チャレンジスポーツ教室(千曲市)

生グライダー競技選手権大会」を開催しているほか、全国48チームを招いた「熊谷市高校女子サッカー大会「めぬまカップ」を実施しています。さらにラグビーは平成12年から、全国10地区から32チームが出場する「全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会」を4月に開催しています。

このような全国大会のほかに、地域の駅伝やマラソン大会など、市民が参加するイベントも実施しています。特に、毎年3月末に行われる「熊谷さくらマラソン大会」は人気があり、昨年のエントリー数は1万1000人余り。人数制限を行わざるを得なくなるほど、参加者が増えています。

地域で盛んに行われるスポーツ振興

井上 スポーツは住民の健康増進はもとより、広くまちづくりや地域経済の活性化にもつながります。個人においても、社会においてもさまざまな効用があることから、以前から広く注目を集めてきました。文部科学省においても、昨年、「スポーツ立国戦略」を策定し、スポーツ政策の基本的方向性を示しています。

本日は全国の都市の中でも、特徴的な取り組みを行う都市にお集まりいただきました。それでは、まず、各都市におけるスポーツ施策、現



経済振興・温泉地の活性化を目指して、スポーツ大会を数多く誘致してきました。

近藤 清一郎
千曲市長(長野県)

樽本 加古川市の場合、全国大会の誘致よりも、市民スポーツの実践に力を入れてきました。全国に先駆けて、平成11年には市内5ブロックにおいて総合地域スポーツクラブを設立し、平成15年には市内28カ所すべての小学校区にすることができました。

市も各クラブの設立に向けて後押しはしましたが、基本的には新しくスポーツ施設を整備することではなく、小、中学校の体育館、運動場や公民館など既存の資源をうまく活用し、身近なスポーツ活動の拠点づくりを行ったところに特徴があります。

当初から、多くの高齢者が参加されたこともあり、年を取られてもレクリエーションの一環として無理なく楽しめる、ニュースポーツなどさまざまな種目を積極的に取り入れてきました。現在では幼児から90歳を超える高齢者まで4000人を超える会員が、それぞれに合ったスポーツを楽しむなど、生涯スポーツが浸透しています。



寿野球全国大会(千曲市)

を進めている取り組みについてご紹介いただけますか。

近藤 千曲市では、生涯スポーツの促進のために、市民が参加するスポーツイベントなども数多く実施していますが、その一方で、全国規模の各種スポーツ大会の誘致・開催にも取り組んでいます。

例えば、10歳以下の全国の少年たちが参加する「川淵三郎杯U-10少年サッカー大会IN千曲」や、「湯けむりカップ少年フットサル大会」などの大会誘致に成功、毎年少年たちを千曲市へお迎えしています。

野球においても、年齢40歳以上で試合時の選手年齢トータルが450歳以上(投手は45歳以



「実践」だけでなく、積極的に「応援」したり、進んで「協力」することも、スポーツの発展や振興につながります。

富岡 清
熊谷市長(埼玉県)

スポーツ振興に取り組んだ理由とは

井上 なかなかユニークな取り組みをされていらっしゃるんですよね。それでは、都市自治体としてそのようなスポーツ振興に力を注がれた経緯、取り組まれるきっかけについて、教えてください。

樽本 平成12年に行ったウェルネス都市宣言が大きかったと思います。これは、身体はもとよ

上)が参加する「寿野球全国大会」や、年齢無制限の「全日本生涯野球大会」を長年にわたり本市で開催しています。ちなみに、昨年の「全日本生涯野球大会」で選手宣誓を行った方は86歳。超高齢現役選手も元気に出場しています。

また、このような大会のほかに、一流のアスリートを「夢先生」と称して、彼らが子どもたちに授業を行う「夢の教室」(日本サッカー協会主催)を展開するなど、ユニークな取り組みも行っています。

富岡 熊谷市で盛んなスポーツといえば、ラグビーやサッカー、そしてグライダーですね。それぞれ、本市でも全国規模の大会を開催しています。3月には市内の滑空場で「全日本学



川淵三郎杯U-10少年サッカー大会IN千曲(千曲市)



樽本庄一
加古川市長(兵庫県)

やっと、生涯スポーツが地域に定着してきたな、日本も世界の仲間入りができたかなという思いがします。

市民が支える、応援するスポーツ大会
井上 スポーツとは実践することはもちろん、
てくれませんか。
そこで、加古川市でも、陸上競技場や総合体育館を新設するなど、ハードの整備にも力を入ってきました。特に、コバルトブルーのトラックが特徴の陸上競技場は、高記録が続出する競技場として有名で、大会には一流のアスリートがこぞって出場してくれます。

り、生きがい、人間関係、生活環境など、健康に関するすべての要素をバランスよく保つことの大切さをうたった宣言です。
そのような明るく健康的な社会を築くためには、やはりスポーツは不可欠です。生涯にわたって身近にスポーツができる環境を整えるためにも、先ほど申し上げたように、総合型地域スポーツクラブの設立は、重要な契機となっています。
近藤 千曲市がスポーツ大会を数多く誘致してきた最も大きな理由は、経済振興にあります。特に大きな狙いとしたのは、観光資源である信州最大の温泉地「戸倉上山田温泉」の振興です。この温泉地は、高度成長期からバブル期にかけては、大型旅館やホテルがひしめき、多くの観



熊谷スポーツ文化公園(くまがやドーム)(熊谷市)

観戦したり、支援したりと、市民にとってさまざまな接し方があります。特に大会などを開催する場合には、市民の理解や支えが重要になると思いますが、この点はいかがでしょうか。
富岡 おっしゃる通りです。熊谷市は、平成16年に「彩の国まごころ国体」のメイン会場に選ばれたのですが、市民が積極的に協力し、大会を支えてくれた。これが大会を成功に導いた大きな要因だったと思います。
特に有効に機能したのは、小学校区ごとに設置された「校区連絡会」でした。市民によるサポーター団体として、ここを中心に民泊のお手伝いや、おもてなしの一環として地域を花で飾る「花いっぱい運動」が展開されるなど、精一杯



ニュースポーツ・キンボール風景を楽しむ総合型地域スポーツクラブの会員たち(加古川市)



全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会(熊谷ラグビー場)(熊谷市)

光客が訪れるなど、賑わいを見せたものですが、近年は景気の低迷で、観光客数も減少しています。そこで、着目したのがスポーツイベントの展開でした。各種全国大会を開催することで、各地から関係者を招いて、スポーツを楽しむだけでなくともに、わがまちの資源である「戸倉上山田温泉」にお泊りいただき、活性化につなげたいと考えています。
富岡 もちろん、原点には青少年の健全育成や健康増進効果を期待した上でのことですが、その一方で、施設整備が順調に進んだことも、熊谷市がスポーツ事業を進展させることができた大きな要因だと思います。
熊谷市では、「ラグビータウン熊谷」を標榜し



鮮やかなコバルトブルーのトラックが印象的な加古川総合運動公園陸上競技場(加古川市)

活動してくれました。
その精神を今後のスポーツ活動に生かすため、熊谷市では平成19年に「スポーツ熱中都市宣言」を行いました。この中で、私たちは「実践」「応援」「協力」を特に強調しています。つまり、スポーツを自分たちが「実践」することはもちろんですが、積極的に「応援」したり、進んで「協力」することが、スポーツの発展や振興につながると考えているのです。
樽本 そうですね。スポーツには実践だけではなく、「支える」という要素も見逃せません。加古川市でも、市民の皆さんが熱心に大会を支えてくれます。
熊谷市と状況は似ているのですが、兵庫県で

ていますが、そもそもは、平成3年に地元の県立高校が花園の「全国高等学校ラグビーフットボール大会」で優勝。そして、同年に県営の立派なラグビー場が完成したことがきっかけになっています。一気に市民の間にラグビー熱が盛り上がりました。
さらに、平成16年に埼玉県で開催された「彩の国まごころ国体」のメイン会場に選ばれたことは、ある意味決定的でした。これにより、従来からのラグビー場に加えて、くまがやドームや陸上競技場など、さまざまな県営のスポーツ施設を整えていただきました。これらがなければ、今のようなスポーツ振興を図ることもできなかったでしょう。本当に幸運だったと思います。
樽本 私も、ソフトの取り組みに加えて、ハードの整備は非常に重要だと考えています。例えば、一流のアスリートの活躍を間近に見ることが、市民にとっては大きな楽しみの一つですが、しっかりとした施設がなければ、選手も来



関東学生グライダー競技会(グライダー妻沼滑空場)(熊谷市)



加古川マラソン大会で受付業務を行うボランティアスタッフ（加古川市）

は平成18年に「のじぎく兵庫国体」が開催され、加古川市では4競技が開催されましたが、多くの市民ボランティアが活動してくれました。特に力になったのは、各スポーツ団体の皆さんです。普段は野球チームに所属している人たちも、バレーの大会があるときは、その応援に行く。あるいは駐車場の警備を担うなど、裏方に回り大会を支える。そのような、種目を越えた協力の輪ができたことは、国体を通じて得られた大きな成果かなと感じています。

近藤 千曲市でも、市民ボランティアが各種大会を盛り上げる陰の力となっています。加古川市と同様に、大きな大会が行われると、異なるスポーツ団体の人たちが、互いにサポートして



井上 繁
（常磐大学教授）

スポーツ団体やスポーツ関連会社などに管理を委託しています。各団体ともわれわれよりも専門的な知識が豊富ですから、効果的に管理、運営ができ、市民にも喜ばれています。

これからの地域スポーツの在り方

井上 それでは最後の質問です。これまでの取り組み、そして効果も踏まえて、今後の抱負や具体的な振興策についてお話しください。

富岡 まず、スポーツ振興計画を策定します。今後のスポーツ施策の基本的な方向を示す計画として、今年の3月をめどに策定する予定です。

さらに、大きな組織変更も実施します。従来は、スポーツに関する事は教育委員会が実施していましたが、来年度から学校体育を除く事業については、新たに市長部局に部署を新設し、ここが担うようになります。これまで以上に、スポーツイベントが展開できるようになるほか、新しく産業振興・健康づくりなどの施策と関連づけながら、取り組みを進めていく予定です。最後に、2019年はラグビーのワールドカップ

います。

また、野球大会などでは、スポーツ団体はもとより、観光協会や温泉旅館組合など多くの方々に実行委員会に入ってもらい、活動していただいています。全国のチームへの参加の呼び掛けから宿泊、大会運営と、ありとあらゆることを、この実行委員会が担っているんですよ。

スポーツが生む社会的な効果

井上 実際に皆さんの都市では長い期間にわたってスポーツ振興に取り組まれ、大きな成果を挙げてこられたと思います。それでは、現段階でどのような効果が実際に表れているのか、具体的にお聞かせください。

富岡 国体の開催に市民がかかわったことで、助け合いの精神がはぐくまれたのは確かだと思います。国体が終わった後、校区連絡会は一時的に解散したものの、現在では装いも新たに、地域のコミュニティの核として、多方面にわたってまちづくり活動を展開しています。

さらにスポーツは合併効果を高める役割も果たしてくれました。熊谷市は平成17年と19年に2回にわたって合併を行ってきましたが、例えば、合併前の旧妻沼町で行われていた「グライダーフェスティバル」に旧熊谷市民が参加して体験搭乗を行う。逆に、旧熊谷市時代から行っていた「熊谷さくらマラソン大会」に旧妻沼町や旧大里町、旧江南町の人たちが参加し、一緒に汗を流す。そのようなスポーツ体験を通じて、新市の中に強い一体感が生まれました。

近藤 千曲市も平成15年に3市町による合併を経験しましたが、どうしても合併市は地域エゴが先行するものです。熊谷市と同様、合併後の

一体感の醸成に、スポーツは大きく寄与してくれました。

ほかに、スポーツは障がい者への理解を促進させる効果を生んでいます。

実は、千曲市にはバンクーバー冬季パラリンピックのアイスレッジホッケーで銀メダルを獲得された市民がいるのですが、千曲市に凱旋されたときは、大勢の方々がお祝いに訪れ、それ以来、障がい者への理解も進んできているようです。

樽本 総合型地域スポーツクラブを設立しておよそ10年以上が経過した今、やっと、生涯スポーツが地域に定着してきたな、日本も世界の仲間入りができたかなという思いがしています。継続して取り組んできた成果ですね。

ほかに、スポーツ事業を通じて、官民協働を進展させることができたという点もぜひご紹介したいの一つです。例えば総合体育館もPFI方式で新設し、管理も民間が担っています。総合体育館だけではなく、陸上競技場、プール、サッカー場など、ほかの施設も各



千曲市長

その点、各都市ではスポーツの実践はもとより、支える機能、育てる機能など、スポーツの幅広い機能や効用に注目され、工夫して取り組まれていました。全国の都市にとっても、大いに参考になる話が多く出たと思います。これからはスポーツを切り口に、住民と連携したまちづくりが活発に展開されることを願っています。本日は、長時間にわたり、ありがとうございました。

（平成23年1月26日、日本都市センターにて実施）
本コーナーは隔月掲載となります。次回は5月号に掲載予定です。

